

全体事業名称	CHIKUGO ART POT		
実行委員会	ちくごアートファーム計画実行委員会		
中核館	福岡県立美術館		
	住所	〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 5-2-1	
	TEL	092-715-3551	FAX 092-715-3552
	ホームページ	<a href="http://fukuoka-kenbi.jp/">http://fukuoka-kenbi.jp/</a>	
構成団体	福岡県 福岡県教育委員会 筑後市 筑後市教育委員会 NPO 法人芸術の森デザイン会議 ちくご JR 芸術の郷事業団（九州芸文館指定管理者）		
事業開始時点の課題分析	<p>現状、福岡県立美術館においては、福岡県の文化芸術の発展、振興のため、地域住民の参画を伴った移動美術館展の開催を県内各地で行うなど、県内全域を対象とした取組を行ってきた。</p> <p>しかしながら、福岡県における美術館施設はそのほとんどが福岡県北部（福岡・北九州・筑豊エリア）に集中しており、これまで福岡県南部（筑後エリア）の住民が地元で一流の芸術文化に触れる機会は少なかった。その筑後エリアには、棚田をはじめとした豊かな自然環境、木工や緋などの伝統工芸、橋梁や工場群の近代化遺産など、数々の地域資源を携える一方、住民の実感として都市部と比較して、「地元には何も無い」という消極的な声も多く聞かれているところである。</p> <p>このような状況の中で、平成 25 年 4 月、筑後エリア住民の文化交流の場として福岡県によって芸術文化交流施設「九州芸文館」が開館した。基本的には指定管理者が運営する貸館施設で、開館以来、講座・教室・制作発表の場として順調に活用されているが、個人の趣味・教養的な段階に留まっている。これを、筑後エリアの地域特色を活かした多面的な文化芸術の醸成の段階にまで高めるため、地域住民が一流の芸術文化に触れる機会を提供し、同館を拠点に専門性の高い企画をより積極的に行うことで、地域住民の地元に対する誇りや文化芸術活動への主体性を促進する必要がある。</p> <p>以上の問題意識から九州芸文館を拠点に「ちくごアートファーム計画」を立ち上げ、筑後エリアの魅力に注目しながら地域と一緒に展覧会を作り上げるプロジェクトを三年計画（～2016 年度まで）で実施した。地域の方々と一緒に作り上げる展覧会の取り組みについては、3 ヶ年で地域の方々に浸透しつつあるが、地域住民が主体となって展覧会が作り上げられるような取組とするには、更に地域ネットワークの中に浸透させる必要がある。</p> <p>そこで九州芸文館で地域資源を活用した参加型展覧会を行うという枠組みを継承しながら、九州芸文館以外の場所でのワークショップなど、その成果を地域住民の一人一人へ届けることができるプロジェクトを実施したい。前プロジェクトで収穫した種を、ひとりひとりの手元に届けるため、九州芸文館の交流拠点性の発展を図りつつ、アートが地域に出かけていくことで、より地域と密着したプロジェクトを実施していく。</p>		
事業目的	<p>本事業の目的は、地域の歴史博物館、内外の芸術関係者、地域住民とが一体となって、地域資源を活用した市民参加型の展覧会に取り組むことによって、地域資源の再発見と文化的な人材交流を図り、ひいては地域住民の地元への誇りと愛着の深化を促すことである。</p> <p>福岡県立美術館が核となり、九州芸文館を拠点として文化に関心のある地域住民への情</p>		

	<p>報発信を強化し、また彼ら同士の交流を促す仕組みをすることによって、より創造的な文化環境作りに取り組む。</p>
<p>事業概要</p>	<p>『CHIKUGO ART POT』では、『ちくごアートファーム計画』で取り組んできた、筑後地域の歴史や身体性、環境をテーマに地域に根ざした親しみやすい展覧会やワークショップ等の実施を継承しつつ、より地域住民が主体的に関わること、より地域に密着した活動へと発展させていくことを目指す。</p> <p>2年目となる2018年度は、美術家・中崎透（なかざきとおる）を招聘し、地域の陶芸施設の活用や、市民参加での制作展示など、前年度以上に地域住民が楽しみながら主体的に取り組んでいけるプロジェクト実践を目指す。</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</p> <p><input type="checkbox"/>イ ユニークベニューの促進</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</p> <p><input type="checkbox"/>ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</p> <p><input type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動</p> <p><input type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p>
<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>「ちくごアートポット」では、「ちくごアートファーム計画」と同様、地域の自治体（筑後市・筑後市教育委員会）および商工会議所（筑後商工会議所）で構成される実行委員会により、地域の協力を得ながら実施した。「ちくごアートファーム計画」で取り組んできた、筑後地域の歴史や身体性、環境をテーマに地域に根ざし親しみやすい市民参加型の展覧会やワークショップ等の実施を継承しつつ、より地域住民が主体的に関わり、より地域に密着した活動へと発展させていくことを目指した。</p> <p>2年目となる2018年度は、パフォーマンス、映像、インスタレーションなど多様な表現形式を用いて作品を発表する一方で、地域に入り込んで、様々な人がゆるやかにアートでつながる場作りを国内外で実践する美術家・中崎透（なかざきとおる）を招聘し、地域の陶芸施設の活用や、地域作家参加での制作展示など、地域住民が楽しみながら主体的に取り組んでいけるプロジェクト実践を目指した。</p> <p>今回の趣旨は、美術品、民芸品、日用品、言葉（誌）、パフォーマンスに至るまで、その「もの」についての価値基準や人々の価値に揺さぶりをかけて「価値とは一体何なのか」を来場された方々に問う試みであった。特に筑後地域の人々にとって馴染みの深い久留米餅でつくられたもんぺや木製郷土玩具のきじ車といった工芸品とともに、同時に並ぶことが稀な現代美術作品が同じ会場で並列され、日頃我々が目にする市場の光景に違和感を与え</p>

	た。地域の一人ひとりが改めて価値について考えることは、地域資源や文化について目を向けることになる。本プロジェクトはその一助となる事業となった。
--	---

**【事業実績】**

＜各開催事項の参加者実績＞

1(1)①プレ・ワークショップ 参加者数： 0名(予定： 30名)(中止)

2(1)③市民参加型展覧会の開催 参加者数： 2,371名(予定:4000名)

2(1)④トークの開催 参加者数： 499名(予定： 80名)